

# 農作業一口メモ (平成29年7・8月号)

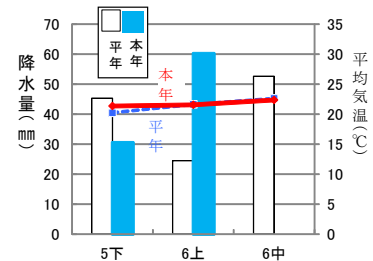
鳴門藍住農業支援センター  
鳴門藍住地区農業生活指導班会

## 気象 <四国地方 1か月予報(6月17日~7月16日)>

期間のはじめは、降水量の少ない状態が続くでしょう。その後は、前線や湿った空気の影響を受けやすく向こう一か月の降水量はほぼ平年編みの見込みです。

寒気の影響で期間のはじめを中心に気温の低い時期があり、向こう一か月の気温も平年並みか低いでしょう。

(平成29年6月15日高松地方气象台発表)



## 水稲 <水管理について>

1株あたり15~20本の莖数が確保できたら、小さなひびが入る程度を目安に中干しを行いましょ。中干し後は間断かん水を行い、草勢の維持に努めましょ。出穂前後2週間程度は、水を切らさないような管理が必要です。また、収穫前の早期落水は、品質・収量低下を招くので気を付けてください。

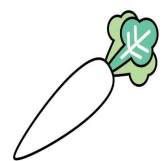


いもち病や斑点米の原因であるカメムシ類に注意ましょ。カメムシ類の耕種防除として、生息場所となる畦畔の草刈りが有効ですが、出穂の10~15日前までに終わらせましょ。(出穂直前の除草は、カメムシをほ場内に呼び込むことになるため行わないでください。)

## だいこん <ほ場の準備>

8月の下旬から、は種が始まります。気温や降水量に応じてかん水や排水対策が必要になりますので、準備をしておくことが重要です。

発芽後台風等の強風により痛む場合があるので、寒冷紗等の被覆資材も準備しておくといでしょ。



## 農薬危害防止運動について

農薬の使用に伴う人や家畜への危害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月にかけて「農薬危害防止運動」が実施されます。

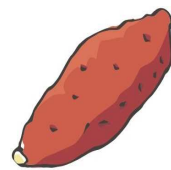
農薬による危害を防止するため、次のとおり忘れずにチェックを行ないましょ。

- ①農薬散布前にはラベルをよく読み、使用方法・注意事項等を確認して下さい。
- ②農薬散布時には防護装備を着用するとともに、散布作業後には全身をよく洗って下さい。
- ③炎天下での長時間の散布は避け、朝夕の涼しい時間に作業して下さい。
- ④もし農薬散布後に気分が悪くなった場合には、速やかに医師の診断を受けて下さい。
- ⑤誤飲等による事故防止のため、容器の移し替えは絶対にしないで下さい。また、農薬は鍵のかかる場所で適切に保管して下さい。

## かんしょ <温度管理と水管理に注意しましょう>

### <7月の管理>

7月になると、シロイチモジヨトウやハスモンヨトウの発生が多くみられるようになります。孵化直後の幼虫の時期が薬剤の散布適期です。早すぎても効果は少ないので、地域、地区ごとに一斉に防除するのが効果的です。また、同じ薬ばかりでは効き目が落ちるので、何剤かをローテーションで使用しましょう。



### <8月の管理>

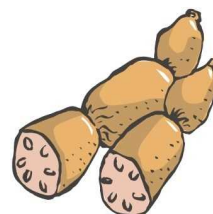
7月の中旬以降気温が高く雨が少ないため、葉の黄化が早まっているほ場があります。気温や降水量に注意してかん水や追肥の時期や量を判断してください。

## れんこん <イネネクイハムシの防除、腐敗病対策について>

イネネクイハムシは6月下旬頃から成虫が産卵し、幼虫はレンコンの根を食害するとともに、レンコンにも傷をつけます。前作の収穫中に越冬幼虫が確認されたほ場では、早めの防除を行きましょう。

腐敗病が懸念されるほ場では、水温の上昇を低減するため、葉が水面を覆うまでの間、深水管理を心がけましょう。

腐敗病対策として太陽熱土壤消毒があります。地温の上昇しやすい7月の梅雨明け後から8月が処理適期となりますので、腐敗病発生ほ場では実施をご検討ください。実施方法等について、不明な点があれば農業支援センターにお問い合わせください。

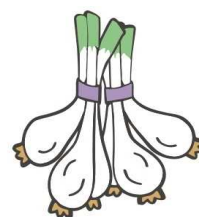


## らっきょう <病害虫対策について>

「ネダニ」や「赤枯病」は、種球による持ち込みが発生の主因となっており、7~8月の対策が最も重要です。充実した清潔な種球の天日乾燥、薬剤浸漬を励行し、病害虫密度を下げ、必要に応じ、土壤の酸度矯正を行きましょう。

また、バスアミドなどによる土壤消毒を必ず行い、ネダニ残存虫、雑草種子等を防除しましょう。なお、土壤消毒時にフィルムで被覆を行わないと効果はありません。

定植後まもなく、ネマキック粒剤等を散布することで、効果的にネダニの密度を低



## レタス <高温期の育苗について>

夏場の育苗では、徒長防止のため、肥料分の少ない培土を使用し、かん水は朝行うようにしましょう。育苗期前半には肥料を与えすぎないようにし、定植前には肥料を切らさないよう必要に応じ液肥を与えましょう。



## ブロッコリー・カリフラワー<育苗管理について>

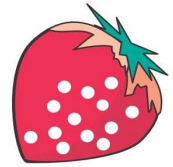
- ① 苗立てのセルトレイは200穴または128穴を、育苗倍土は与作N150等を利用し、排水不良や病原菌の感染を防ぐため、トレイは直接地面に置かないようにしましょう。
- ② 育苗は寒冷紗（遮光率50%程度）をかけた育苗ハウス内で行うが、発芽までは、涼しい場所で保管する。かん水は徒長防止のために、朝十分行いましょう。
- ③ は種後10日後頃から肥料が切れてくるので、キッポ青またはメリット 青500倍液を5~10日毎にかん水を兼ねて施しましょう。
- ④ 根こぶ病や苗立枯病の多発ほ場に定植予定の場合は、登録薬剤をトレイ灌注しましょう。
- ⑤ チョウ目害虫防除のためにプレバソン等の登録薬剤をトレイ灌注する。なお、定植後、乾燥条件が続くと効果が発揮できないことがあるため、場合により、他剤で補完防除を行いましょう。



## いちご <「さちのか」の管理について>

### <7月の管理>

育苗管理：高温対策として、育苗床の風通しを図り、鉢間隔を広めにとります。特に梅雨明け後は、寒冷紗等を使用し、対策に努めましょう。過湿・乾燥を防ぐため、こまめにかん水しましょう。また、炭そ病の感染予防のため、夜間は地上部に水が残らないよう管理します。炭そ病・うどんこ病対策、ハダ二等の防除対策に努め、良質な苗を作りましょう。



### <8月の管理>

育苗管理：置肥は8月上旬までとし、花芽誘導期に窒素が少なくなるように管理します。生育状況のみを微量要素を含んだ肥料を葉面散布します。

炭そ病対策として、引き続き定期的な薬剤散布に加え、雨よけや水のはね返りを防ぎ、必要以上に窒素を与えないことが重要です。また、ランナーの切り離しや下葉かぎなどを早めに行い、風通しを良くしましょう。発病株や切り離し後の親株は、早急に処分しましょう。

本圃管理：完熟堆肥等を施用し、土作りをしっかりと行いましょう。また、土壌消毒と病害虫対策に努めましょう。

## えだまめ <温度管理と水管理に注意しましょう>

開花期から結実期に土壌を乾燥させると着莢数が少なくなりやすいので、早めに灌水して下さい。収穫間近になったら灌水を増やして、子実の肥大を図りましょう。収穫適期は短いので、過熟にならないうちに収穫して下さい。早朝涼しいうちに収穫し、品質を保つために冷蔵庫で保管して下さい。

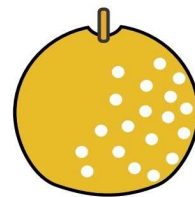


## な し <防除を徹底しましょう>

### <7月の管理>

黒星病が発生している園がみられます。来年度に持ち越さないためにも徹底的に防除しましょう。

防除暦は、黒星病、輪紋病、ダニ類、シンクイムシ類様々な病害虫に対応したものとなっていますので、防除暦に準じた防除を心がけましょう。



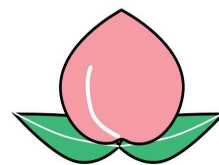
### <8月の管理>

ナシヒメシンクイは、8月になると果実の食入害が増えてきます。

豊水の収穫前に薬剤散布を行いましょ。また、被害果実はそのまま放置せず、潰すまたは土壌に埋める等して、被害果から成虫が新たに発生しないようにしましょ。土壌が乾燥するようなら、適時かん水を行いましょ。なお、収穫の終わった園についてもかん水は重要です。

## も も <着色管理について>

- クビアカツヤカミキリの被害が広がりつつあります。対策は、
  - ①成虫を見つけしだい捕殺しましょ。
  - ②幼虫食入孔を見つけた場合には針金で刺殺しましょ。
  - ③成虫の産卵時期（6月下旬から8月上旬）にシュロ繊維やネットを樹幹地際部に巻き付けて産卵できないようにしましょ。
- 梅雨が明けて乾燥が続く場合は、かん水を行いましょ。
- 果実の着色は、果実への日照により促進されます。枝への支柱、徒長枝の処理、摘葉、反射マルチに利用等により着色管理を行いましょ。
- 収穫後にはせん孔細菌病の防除を必ず行い、早期落葉を防ぎましょ。



## か き <仕上げ摘果を行いましょ>

7月に入ると生理落果が落ち着いてきますので、仕上げ摘果をする時期になります。1結果枝1果を基本とし、1果当たり葉数は10~20枚になるようにしましょ。梅雨が明けて乾燥が続く場合は、かん水を行いましょ。8月上旬に炭そ病・うどんこ病とカキノヘタムシガの防除を行いましょ。

8月下旬から収穫前に果実が炭そ病に感染しやすくなります。薬剤散布後の耐雨性は150mmが限度なので、散布後の降雨量をみながら追加散布しましょ。また、台風襲来前に必ず薬剤散布をすませましょ。

なお、フジコナカイガラムシの若齢幼虫、イラガ、カメムシ類についても必要に応じて薬剤による防除を行いましょ。



鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

[http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/)

※お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515